

野木小学校
同窓会報
第6号
平成3年12月
野木小学校同窓会編集部

就任のご挨拶

同窓会長 福田善正



(第25回卒 武生)

同窓会の皆様御無沙汰ばかり致しておりますがお変わりございませんでしょうかお伺い申し上げます。

この度喜多利夫会長のあとをうけ浅学非才な私に会長と推挙していただきましたが極力ご辞退申し上げましたところご理解を得ずお受けする事になりました。幸いにも副会長さんをはじめ理事の皆様、学校当局の深いご理解とご協力を得て、今後精一杯努めさせていたゞきたいと思えますので宜敷くお願い申し上げます。

昔から何事も三代目で良くも悪くもなり勝負の代と言われ、その重責を改めて感じております。幅広い識見と実践力のある前会長の功績を受け継ぎ更に発展させていきたいと思っております。

昨年度改修されました野木小学校は白亜の殿堂として野木地区民の寄り所となっております。近くに住む精で、児童達の活躍ぶりの姿を見るにつけ、同窓生として喜ばしい限りと思っております。交通の便もよくなり帰郷されました折、また、町内近隣に住いの方も母校野木小学校には是非お立ち寄りいただき激励のことばをいたゞけますと幸

退任の挨拶

前同窓会長 喜多利夫

(第23回卒 下野木)

野木小学校同窓会員の皆様には益々お元気で御励みの事と拝察致して居ります。

私は過去三ヶ年間会長の職を預り、これという仕事もせずに副会長の福田善正様に御後任をお願い致しました。会員の皆様や直接運営に御力添えを頂きました学校当局の方や役員の方々の御協力によりまして無事職務を終えさせて頂きました事を、会報をお借りして厚く御礼を申し上げます。

近頃私の感じて居ります事の一つに、野木の里は杉山から下野木まで細長い集落の点在で形成されていますので、生々とした民主化された里造りには地区民の団結が大切かと思われてなりません。次にこの間の紙上で、最近

に存じます。住む所は違っていても母校を思う気持ちは一つでございます。会員皆様野木地区にお住いの方々と力を合わせ、より良い野木の里造りに励みたいと思っております。

ますので宜しくお願い申し上げます。

会員御一同様の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。就任のご挨拶といたします。

良き環境に願いを

校長 鹿野公夫

(第38回卒 上野木)

会員の皆様其後御無沙汰致しておりますがお元気ででしょうか。会員名簿を捲りながら御健んで、各分野でそれぞれに活躍されておられる姿を、子供の頃覚えておりますお一人お一人の顔と重ねながら思い浮かべております。

ここ野木の里の学校周辺は黄金の稲穂と転作の豆の葉と白亜の校舎とが眩い程の太陽の光を受け燦爛と輝いております。母校に赴任して早くも一年余が過ぎました。その間校下の方々、同窓会の方の温かい御支援と御指導を身に染みて味わわせていただきました。

昨年校舎を大改修していただき、隅々まで行き届いた校

舎、本当に気持ちの良い環境で野木っ子は学んでおります。「環境は人を変える」と言われ人的に、物的により変化致します。それだけに私達大人の言行動が児童達に大きな影響を及ぼします。

この恵まれた野木の里で、日々の教育課程の中に、良い点は影響を、悪い点は自らの力で跳ね返すだけの力をあらゆる場面で育んで行きたいと思えます。地域にはいろんな組織があるわけですが、それ

町行政について

上中町議会議長 前野栄治

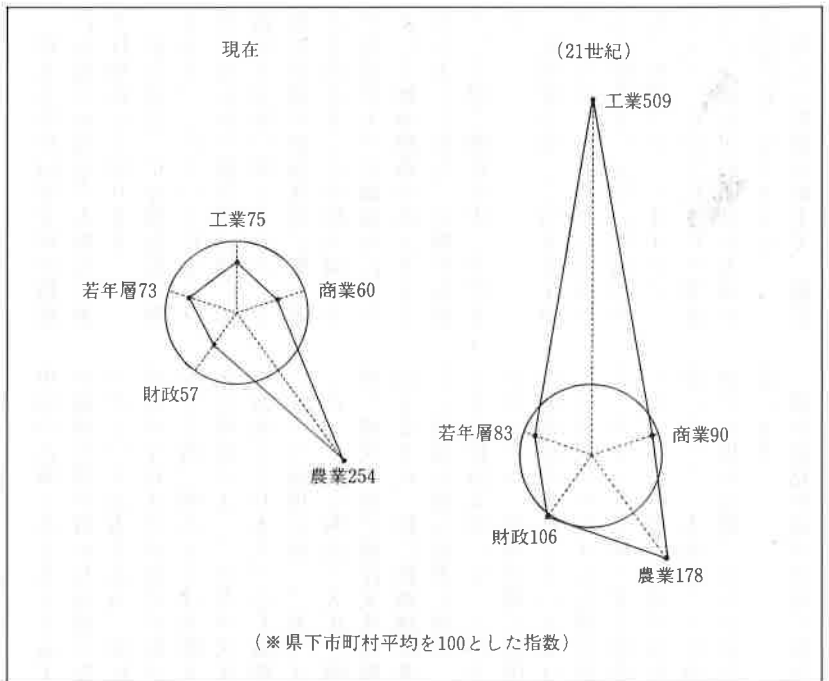
(第31回卒 上野木)

上中町の現況は、昭和三十五年では人口九千四百十三人であったのが、年々減少し現在は八千人前後であり、基幹産業の農業戸数も千五百八十四戸より千百八十七戸となり第二次産業への若者の流出が原因と考えられます。県下の平均構造を百として、当町の現況はグラフの通りです。

町では、「安堵できる町」「稼げる町」をめざし、中核工業団地、多目的河内川ダム建設を柱として、第二次総合

開発後期対策を作成し、二十世紀に向けて町づくりが進められ、図のように活性化に努力しております。土地利用計画では、
一、工業用地の設定
中核団地では、日電ガラスが十月中旬の創業をめざし建設中で、更に数社の進出が決定されている。
一、住宅用地
三宅、瓜生、新道、大鳥羽用地に住宅を建築し、人口一万人をめざしての用地買収を

らの方々と互いに連携を図りながら、地域に根ざした学校経営を実践していきたい所存です。どうか会員の皆様、地区民の皆様の温かい御支援と御指導を賜りたいと存じます。
最後になりましたが皆々様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ、又、帰郷の節には母校に是非お立寄りいただきまして後輩達に励ましのことばをいただけますことを祈念しまして御挨拶と致します。
(旧姓 居閑 上中町仮屋)



進めている。
一、商業地域
利便性を考え、都心部を整備し若者の定住をはかる。
一、農業地域
現在の九十六%に当る千二百十八ヘクタールを確保し、農業振興を現代にマッチした体型で取り組む。
一、保存地域の設定
歴史的な史跡、古墳、小・中学校、保育所周辺の開発保存。
具体的にみると、住みよい環境づくりに下水道の早急な整備(野木地区は町内が一番に着工)、ゴミ問題の解決、地域情報化システム(有線テレビ)があります。有線テレビについてはできる限り安い負担で全戸加入に向け、国や県に要望中です。





教育関係では、知・徳・体と調和のとれた人間性豊かな児童生徒の育成と道徳性の実践、学校設備教材等の充実。社会教育では特に健全な青少年の育成に力を入れ、基金の運営で国際交流により海外の研修も計画されています。



ふるさと創生の町の対応として、名水の里瓜割公園の周辺整備があり、古墳：郷土の誇りとして周辺を整備しやすらぎの場に。街道：鯖街道（街道松を植え瓜割より熊川宿まで）の再現。人：高齢化社会の対応で老人楽園を造成して、デイケアセンターの建設推進のため、急むす庄周辺での用地の確保。顔：上中駅を当町の玄関口と

して駅舎を改造して、軽食特産物等の販売を兼ねた第三セクター方式により本年中に発足予定。

河内川ダム建設は、洪水調節と北川水系の正常流水によりかんがい用水と水道用水（小浜・上中）、工業用水等多目的なダムとして建設するため種々調査が実施され、いよいよ河内区民の生活再建のため、移住地の交渉に県・町ともに正念場となっております。

野木地区に関して、工業用地（中核団地）、準工業用地二ヶ所、農業用地は土地改良農振地域の関係で大部分です。県道改良は、上中⇄小浜線の早期完了と杉山線についてはカクタイ橋まで舗装、野木川と杉山川の予算の確保を生活会議で県土に陳情し、広域農道期成同盟会で杉山トンネルを含め、国県に対して運動を展開し、下水道整備については野木地区全域着工をめざしています。

交通高速体系として、北陸新幹線の若狭まわり高速自動車道の早期の着工に県を中心に嶺南の市町村が一丸となって運動を展開中です。湖西線の乗り入れには、琵琶湖若狭リゾートライン研究会を結成

し実地の踏査が実施されました。国道三六七号線（旧鯖街道）はハナオレ峠のトンネル着工と三〇三号線ではオイワケ隧道の早期完了を関係省庁に陳情等努力しております。

町行政の現況は以上の通りですが、今後私達当局者は行財政力を健全化し福祉問題の

充実や文化的な施策（文化会館や武道館、資料館、図書館等）があり、特に今後自治体として大きな問題となってきたるゴミ収集処理については、リサイクルを考え懸命に取り組まなければならないと考えております。

旧職員からの便り

野木小の思い出

小浜市広峰 藤野三郎

ご縁があって私が野木小に勤務したのは、今から約三十年前の昭和三十四・五年の二年でした。わずか二年の在職でしたが、思い出は多く、何から書くかと迷う位です。当時、田島中で女子バレーの指導をしていた私は、郡市切っでの大物校長出口喜太郎氏に、「君、うちの学校に来ないか。」とお誘いを受け、初めて上中町で教鞭をとることになりました。

野木小では、学校中で一番児童数の多い、中川平一君たち五年生（五十五名）の担任でした。このクラスは、普通の教室に入ることができず、学校中で一番広い、県道に面した、少し新しい教室で授業をしました。粒揃いの優秀なクラスで、何をやってもやり甲斐がありました。町内の各種大会では全て優勝、あるいは優秀賞を獲得し、出口校長先生はじめ先生方に大変喜んでいただきました。

当時十、十一才であった童顔の美少年、美少女たちも四十代に入り、各々の地域で中堅として活躍していることと思ひます。

職員の違いで印象深いのは、何と言つても出口校長先生の事です。

夕方になると、必ず、「藤野、酒買って来い。」と命ぜられました。私も嫌いな方ではないので、単車で急いで買いに行きました。酒の魚は、校長さんの好きな棒天と鯖缶くらいでした。わずかに一升程の酒で、男子職員数名が口角泡を飛ばし、夜遅くまで教育談義に花を咲かせたものでした。

また、出口氏は、当時の農協幹部の方と懇意にしておられ、その方々とよく小浜、三丁町たるい亭へ行かれました。

その時の運転は、いつも私でした。農協のトラックに幌をかけ、農道をガタガタと走つたものでした。昭和三十年代は飲酒運転のおとがめもなく、気楽なものでした。中川平太夫氏も時々同席しておられました。

夜遅くまでたるい亭で遊び、学校へ戻ると、そこにはおぶくろさんのようにやさしくて

親切な小畑校務員さんが待つていてくださいました。そして今度は、小畑さんの手料理で足洗いです。実に愉快な学校でした。

小生も、ずいぶん人生勉強をさせていただきました。それにつけても、大変お世話になった出口氏も、上中町の生んだ偉人の中川氏も今は他界され、心からご冥福をお祈りする次第です。

時々野木街道を通りますが、あれから三十余年、野木地区もずいぶん変わり、堤、杉山地籍にはつち音も高く、中核工業団地が建設されております。この完成によって、野木地区や上中町は一大飛躍を遂げるものと信じています。益々のご発展を祈つて止みません。

最後になりましたが、野木小学校及び育友会のご発展と会員の皆様のご健康ご多幸を心から祈念しております。

上中町上吉田 松宮 敏

想いのままに

上中町上吉田 松宮 敏

思えば十数年前、野木校在職中には、校下の皆様、同窓の皆様は大変お世話になりました。ご無沙汰ばかりで、申し訳なく存じます。

そのお詫びの気持ちと、私の様な者に、ご指名いただいた榮譽に対し、感謝の気持ちをこめて、つたない筆を執る決意をいたしました。

然しながら、よく考えてみると、現在はボケ老人、今年から敬老会に招かれ瓜生小学校へ参りました。

会場で同級生五人に会い近況を話し合いました。足腰など体の不調を訴える者、ボケ具合をばやく者等、あまり明るい話題ではありませんでした。人生も七十を越すと、至し方ありません。

私も例外ではありません。こんなボケ老人の旧職員が「タワゴト」で紙面を汚しては相済まないと思ひ、早速会

長さんにお断りしたのですが、ボケ老人の記事も欲しいので何でもよいから歯に衣着せず思ひのままズケズケ書いてくれとのことでしたので、つたない文を書かせて貰いました。

一、恵まれた野木の里 赴任時の第一印象がそうでした。今でも羨しく妬ましくさえ思ひます。

北に屏風の様な薄紫の連山、寒い北風をさえぎり、南は北川を配した肥沃な野木平野が広々と開け、一日中太陽の恵を浴び、国道二十七号線の大バイパス県道上中小浜線が走り、野木の里はこの動脈によって一つに結ばれています。

その上堤には、若狭中核工業団地の建設が着々と進み、おらが町に大工場が出来、若者には明るい二十一世紀が約束されました。野木の里は、正に理想郷、こんな良い所は他にはない。

野木に住んで居られる人は幸だなあと思ひます。 二、よい学校

野木平野の中心で、しかも一等地に白亜の殿堂が、南の太陽を満面に受け堂々たるたたずまい。学校と云えば山に近接し山を割り校地を造成するのが常ですが、一等地に理想的な形に造られています。

野木の人の教育に対する理解と情熱の深さが何れ、有難いと思ひました。これが私の強烈な第一印象でした。

当時は校下の人々が、気軽に一服の気持ちで学校をたずねてくださいました。何かある時は勿論、ふだんでも学校の近くを通りかかると、「どねしとる」と親元のように気安く立ち寄りてくださいました。色々な会合もよくありました。野木ならではのなおいにも時々ありお仲間入りして楽しい一時を過ぎて貰いました。

この様に村に解けこみ、「われこ、うらこ」と胸襟を打聞きおつき合ひをさせて戴きました。常に校下の人との温い交流があり、名実共に里の中心的存在でした。このお蔭で校下の様子もよく解り、教育上大変役立ちました。学校は



生徒だけのものでなく、里の人の学校でもあり、校下の人々に支えられてあるのだとつくづく思います。

放課後仕事が終わってから近くの山へ時々わらび取りに行きました。子供も山のわらびを初めて知り山裾を駆けまわり手に一杯取って小踊りしていました。山芋もありました。松茸も出るとか、山の幸も豊富なよい所です。

学校の横手の山裾に戦没者の慰霊碑があります。皆さんは忠魂碑と呼び敬慕いたしております。私の戦友の森岡さん、清水さんのお名前も刻まれています。当時は国民の三大義務の一つに兵役があり、男は殆んど兵隊にとられ戦場へ行きました。激烈な戦斗で護國の花と散られた雄々しき人達です。私も前を通る度に拝ませて載せました。そしてこの尊い死を無駄にすることなく、平和を護り続けますとお誓いを新たにいたしております。

三、よき時代に奉職
退職仲間の述懐、「今なら勤まらんなあ」、やれ校則がどうの制服がどうのと騒がれる時代。学生は学生らしくと云うことでそれに合ったきま

りが作られています。父兄会等には、ファッションショウにならぬよう婦人会服でと申し合せがあり、厳守されていきました。

社会人となって会社に勤めでも、社則があり制服もあります。日本が自由主義国家になった当時は、自由と放縦を履き違えない様にと盛んに云われました。自分だけの好き勝手ではなく、友人・学校・家庭・社会と広い視野に立ったものでなくてはいけないと言うことです。

昨日兼田の宮川さんにお逢いしました。思い出すのは、夏休みの一日を生活指導を兼ね学校を離れて、校下の人々のお世話で楽しい思い出を作った。座ることの少くなった今日、あの座禅はよかったです。お話ししたことです。子供は学校だけでなく、そうした地域の人によっての色々な体験も大切なのです。

また、剣道のお話。剣道は技術ではなく礼で始まり礼で終わる心の勉強なのです。練習を始める前には正座して、瞑想して、心の準備が整ってから始めるのだが、この頃は正座が充分出来なくなりました。

のこと。

野木小在任中、文部省の中央研修に国立教育研究所へ行かせて貰いました。その時言われたことは、あの廃墟の中から立ち上り、今日の経済大国と言われるまでになれたのは、藤田耕三さんの言を以てすれば、苦しい時代を生きぬいた人々の不屈の根性である。「どうか、この根性を育てて欲しい。そうでないと日本の将来は心配だ。」とのことでした。この恵まれた世に在って、この話が今以て心に強く残りました。

又この間お寺へ行った時、門前の掲示板に書かれた「ありがとう」の言葉が目についた。何事も当り前で過す今日、素直に感謝できる人でありたいと言う意味であろうと思っ

私達の現職時代は、ご父兄も戦後の苦境時代を体験した人も多く居られ、学校生活自体何の問題もなく、子供たちは、無邪気で素直で可愛い、本当に楽しい時代。野木校で過ぎて載いたことを此の上なく有難く思っております。最後にりましたが、野木小学校の発展と、同窓会員の

皆さんのご健康をお祈り申し上げます。

新入会員紹介 どうぞよろしく!!



- | | | | | | |
|-------|----------|-------|-----|-------|----|
| 名月や | くもりの中で | 光つてる | 堤 | 滝 | 康秀 |
| 北川に | 鮎が泳ぐよ | 野木の里 | 堤 | 森 | 勇気 |
| いわし雲 | 夕焼け空に | 浮かんでる | 堤 | 健二 | |
| 柿の色 | 真赤に染める | 夕日かな | 武生 | 清水祥之 | |
| 初霜に | 寒さが増して | 麦を踏む | 玉置 | 大久保泰央 | |
| 富士山は | 雪化粧で寒そうだ | | 上野木 | 清水完至 | |
| 帰り道 | いつも見とれる | 赤とんぼ | 下野木 | 倉谷浩成 | |
| 赤とんぼ | 竹に止まって | ひと眠り | 杉山 | 高木真由美 | |
| 稲刈りの | 後に咲く花 | 彼岸花 | 兼田 | 辻本香理 | |
| 帰り道 | 香り漂う | 金木せい | 武生 | 桑原晶子 | |
| 縁側に | ききょうを咲かす | 植木鉢 | 武生 | 桑原加奈子 | |
| 夜がふけて | 障子の影から | 虫の声 | 武生 | 山田有美 | |
| 木せいの | 香りに窓を | 開けはなつ | 玉置 | 塚本祐子 | |
| 夕焼けに | オレンジ色の | いわし雲 | 玉置 | 松宮未佳 | |
| 秋の山 | 緑の葉っぱも | 枯れてゆく | 上野木 | 武田裕子 | |
| 秋空に | 紙飛行機が | 飛んで行く | 中野木 | 速水真由子 | |
| わいわいと | 子供さわぐよ | 夏の川 | 下野木 | 上野朝子 | |
| 渡り鳥 | 南へ帰る | 群れをなし | 下野木 | 倉谷友子 | |
| うれしいな | 家に帰ると | くりご飯 | 下野木 | 倉谷真喜子 | |

ふるさとへの便

ふるさとに感謝

第22回卒 中野木 速水兼三郎

美しい自然に囲まれ、伝統と歴史を持つ野木尋常高等小學校、これが大正十四年私が入学した時の母校でした。昭和六年小學校を卒業し、引続き当時併置されていた高等科に進み昭和八年に卒業しました。光陰は矢よりも早く卒業して既に六十年余の歳月が過ぎ、この間同級生もふるさとに残る者、或は離れる者、それぞれ歩む人生は別々の道でありましたが、今世紀の中で最も激動の時期を精いっぱい生きぬいて来たと思います。こうした中で戦場の露と消え、或は病魔にたおれ既に五名の方が亡くなりました。私もいつの間にか七十二才の老人になりましたが、お陰様で健康に恵れ、一日一日を元気に生かされていることの幸せに只々感謝の気持でいっぱいです。私は昭和十五年現役兵として、関東軍第四独立守備隊に入隊

することになり、上野木の河原神社境内に於いて、当時の喜多村長さんを始め、郷土の方々の励ましを頂き故郷を後にしたのがついこの間のようになっています。旧満洲（現中国東北部）のソ満国境の老黒山、東寧地区に駐屯し、昭和十八年に現地除隊し直に満鉄（南満洲鉄道KK）に勤務しましたが、昭和二十年八月九日未明のソ聯軍浸攻により一瞬にして戦場と化し、特に在留日本人は敗戦という悲惨な運命をたどることになりました。衣なく、食なく、住なく、混乱と絶望の中で多くの同胞（開拓団、軍人軍属の家族）の集団自決という最も悲惨な終焉を目撃し、一方飢と貧困に苦しみながら必死の逃避行の中で栄養失調と病気により老人や子供達が次々に死亡し、私も長男を亡くするなど、人間の生きる極限の場に何度も遭

遇し、生きる気力もなく、故郷へ帰る望みも断れ、絶望のどん底の中で心のささえにならず、どんな苦しみにも耐え最後まで頑張るんだ、生きるんだと励ましてくれたのが、ふるさとであり懐かしい思い出でした。翌二十一年七月親子三人着の身着のまま、かろうじて故郷に引き揚げる事ができました。私の今日あるのは故郷があり、思い出があったからです。いつも当時のことを偲びながら感謝の気持でいっぱいです。

六十年の昔を振り返り、目に浮ぶ懐かしい母校の面影は、旧校舎の二階建の木造校舎です。太い丸柱が何本もあって天井の低い二階建の講堂、花崗岩の校門、登下校時には必ず拝礼をした奉安庫、校庭には春は萌えるような新芽をつけ夏には涼しい木陰になりいつも私達をじっと見守り励ましてくれた柳の大木、秋には可憐な花をいっぱい咲かせてくれるコスモス、校庭の周囲にはポプラ、桜、青桐などの大木があって四季を通して、すばらしい環境の中で勉強や体育に、或は時間を忘れての遊びなど、忘れられないいろいろな思い出が今懐かしく脳

裡に浮んで来ます。一年生の時の担任は藤田清磨先生で當時教頭先生だったと思います。同級生の中で私が一番ご迷惑をかけていたように思います。当一年生の時のことでした。當時武生の山から硯石を県道まで運搬中の馬車（金輪四輪車）が校舎東側の道路で突然馬もろとも倒れ、これを見ようと生徒達が雪崩のように見に走りました。たまたまその時朝礼の合図のリン（当時はベルでなく振鈴）が鳴つたのがです。生徒達がなかなか講堂に集合しませんでした。ようやく全員が集合した時点で、藤田教頭先生や越野先生から上級生の代表が前に呼び出され、ひどく叱られました。学校教育の厳しさについて私の脳裡に深く残っている思い出です。当時は制服などがなくほとんどが着物に下駄か藁草履をはいての通学でした。雨が降れば傘にゴム靴、冬になれば綿入れのはんてんかでんち、かりさんにゴム長靴、マントを着ての通学だったと思います。当時の農家の生活状態の一端に郷愁さえ感じる懐かしい思い出です。半世紀を振り返り時の流れをつくづく感じる今日この頃です。

（小浜市）



亡き先生を偲びて

第25回卒(旧姓 中川)

上野木

小林千秋

同窓会報に投稿するように、通知をいただきましたが、六十年前を思い起してみしても、これと言って何も書く事もございません。運動会等もいつもびりなので大嫌いでよく走られる方を見ると、羨しいなあと思いつ、みて居りました。

そこで、五・六年生の時に担任であった野原(旧姓小川)正一先生について、書かせてもらおうと思います。先生は、私の一年生の時(昭和三年)に新任で野木小学校へ来られて、昭和二十年に他界されましたので、同窓会員の皆さんの中にも先生を御存知の方は多くはいらっしゃらないと思います。

いつも教室では手を後に組んで、小さな鞭を持って、「分らんのか」と言っては首筋をたたかれて、こわい先生と思っていました。でも、冬になると弁当が冷たいだろうと言って、ストープの上に置く箱をこしらえて下さった。朝入



初めての同級会の時
先生に写してもらった
写真です。

終戦間近い昭和二十年七月、思いもよらぬ先生の病重じときました。

戦争中は食糧難で、今思うと本当にならぬような話ですが、私達米を作っている農家でも、米は強制的に割り当てで出さねばならず、お米だけの御飯は食べられなかつたくらいでした。私は近くにおられる同級生の方にお願ひして、白米五合ずつお見舞に戴いて、七月三十日小浜病院に先生をお見舞しました。真夏の太陽がガンカン照りつける暑い時屋根の低いバラック建のようにな長く続いた一病室の中に一人横たわつておられた先生。

この頃のような扇風機もなく小さな窓が開いているだけで、「家から食事は運んで来るのだが、お米の御飯は食べさせてもらえない。」と五・六人から戴いた三升程のお米をとても喜んで下さった。横に坐つて外をみていたら、アメリカのB29戦闘機が十機位凄まじく爆撃されるのかとびつくりしたが、そのまま海の方へ行ってしまった。先生は知っておられたかどうか、何も言われなかつたけれど、こんな悪い時期に病氣されるとは本当

にお気の毒だと思ひました。それから二・三日後、亡くなられたと聞きました。もう少し早くお米をあげればよかつたのにと、悔が残りました。あれから四十六年、月日の

「断片」

第41回卒 堤

内藤孝寿

私が小学校に入学したのは昭和十九年でしたから、二年生になつた夏、終戦を迎えたことになりました。その日、鳥羽川の井根山橋たもとの水浴びから帰ると、大勢の人が深刻な顔でラジオを囲んでいたので不思議に思つたものです。食料難時代だったからでしょうか、登校前にいなごを大きな袋一ぱいに捕つたり、げんのしようこを採つて学校に集まり釜ゆでにしたり、校庭がさつまいも畑に変身していたのもこの頃だったと思ひます。武生の裏山の実習畑では、四季おりおりの野菜を作っていました。四年の頃でしたか定かではないのですが、班別に畝を分けて、じゃがいもを栽培し出来ばえを競つたものです。あまりに一生懸命

経つのは早いもので、長生きさせてもらつたなあと、感謝しつつ改めて先生の御冥福をお祈り申し上げたいと思ひます。

(上中町日笠)

になつていて、肥たごの飛沫を頭から被つたこともあつた程です。ある時、猿がいたずらしたものか一部が荒らされていて、犯人は誰かとの詮議で長いこと校庭に全員が並ばされた事もありました。いわゆる軍隊式の連帯責任方式だったのででしょうか。通学路は山すそを縫つて半里、嵐の日は別として当時のわんぱくにとつては恰好の遊び場でした。兼田の宮さんでは、ぎんなんやしいの実を長い竹竿で全て叩き落して宮守さんに叱られ、加福六のお寺の小僧さんをかからかつて追いかけられ、鎌の先(堤の地名)まで命からがら逃げ帰つたものです。

ある春の日、ぶざけていて武生の水田に落ち、稲苗を傷めて顔がはれる程なぐられ、

泣きながら家に帰ると、父が子供をここまで叱るものかと、当人の家まで談判に行ったことも。

福田善正先生のこと。四年から六年までの担当で大変お世話になりました。さぼった罰に、水の入ったバケツを持って立たされ、木の端で頭をなでられた生徒もいた様で、今なら体罰とかでうるさいことでしょうが、当時としては教育熱心な熱血漢先生でした。教室の正面に「らしくあれ」と、自筆で達筆の額が掲げてあった。現在でも私は時々その言葉を使わせてもらっています。

中川平太夫先生。カーキ色の乗馬ズボンをはき、窓枠に腰かけて、キセルでタバコをふかしながら、「この時間は自由時間にする。」といわれ喜しかった。若い話のわかる人だと思った。

二年生頃のことです。卒業式には並みいる来賓の中で、音吐朗朗はりのある声はすばらしく、村長さんの時です。式辞は「人の一生は重き荷を負いて遠き道を行くが如し」と群を抜いて光っていた。昭和二十五年春、村立野木小学校を卒業、昭和二十六年十一月、組合立上中中学校に編入、七年半通ったなつかしの学び舎をあとにしました。以来四十年、今学校はもとより周辺の道路、河川は改良され、田も土地改良で整備されて当時の面かげはないが、大所の山、川、邑のたたずまいは変わっていない。仕事の関係もあって年に何回か近くを通りますが、時により胸をしめつけられる様なつかしさがこみ上げます。(福井市)

イギリス生活

第46回卒 下野木 田中 勝

同窓会の皆様にイギリスからお便りしております。勤務先の武蔵高校(東京)から派

淡き春愁の 邑よ川よ。

の所にウインザーの町があり(この城には女王もよく来られます)、テムズ川を隔てた隣の町がイトトンです。こは全寮制の男子校(十三歳——十七歳)で、「王様の学者」と呼ばれる七十人くらいの奨学生が、創立当初からの建物に住んでおり、他の千二百人くらいの生徒は二十四の寮に別れて生活しています。百五十人くらいいる先生もすぐ近くに住んでいて、町の中に学校があるというより、学校によって町ができた感じですが。生徒の制服は燕尾服で、先生は黒の服に白の蝶ネクタイをしてガウンを着ています。今年で創立五百五十一年、王室との関係も深く、近代には多くのイギリスの指導者を生んだ、いわゆる「名門パブリックスクール」です。それにしても、昨年は新聞やテレビにとり上げられて、まことに晴れがましい汗だくのスタートでした。私に何の取り柄があるわけでもなく、この学校がイギリス社会の中で特別な存在なのです。近年イギリスへの日本企業の進出はめざましく、ロンドンだけでも上中町と小浜市の人口を合わせたぐらいの日本人が駐在してい

思い出あれこれ

第60回卒(旧姓 福田)武生

村松隆子

るようです。古いときたりをたくさん残しているこの学校に日本語コースができたのも、日本の銀行からの寄附によつてですが、時代の流れを感じないではいられません。四月から家族も加わり、子供たちは近くの小学校に行っています。設備、学習面共日本小学校の方が上のような気がしますが、英語を全く知らない子供を気持ちよく受け入れて、みんな親切にしてくださるのは実にうれしいことです。こうして外国生活をしていきますと、言葉も歴史も制服もすべて違っていながら、人間というのはどこでも同じようなものだと思うことがよくあります。勉強熱心な生徒もそうでない生徒もいますし、親子の問題、嫁と姑との問題なども同じです。(イギリス・イトトン)

ども同じです。ふるさとについても考えさせられる時があります。イギリスの静かで快適な夏に、あの日本でのしたたる汗とお盆の頃の蟬の声をひどくなつかしく思いました。私たちにあって野木はかけがえのない原点でしょうが、もし私がイトトンで生まれ育っていたら、ここが私のふるさとであり、きつと白鳥の浮かぶテムズ川や広大な芝生の緑を何よりも誇りに思っていることでしょう。ふるさとを思うのは自然な人情でしょうが、生まれ育ちを超えて人間として理解し合う道を求めるのが、日本人に英語を教えてきて今イギリス人に日本語を教えている自分にとつての課題であるかもしれませぬ。

現在私は、小学生の子供が二人います。それだけに子供達の話題の中から、自分の小学校の頃と対比する事は容易にできません。一番に驚く事。それは給食の事です。夕食の時、「今日のおいしかったね」とか、「今

日はデザートにアイスクリームだったよ。」などと、うれしそうに話をします。それを聞きながら私は思いがかけぬぐります。私達と同世代の人達と話す時、「脱脂粉乳がイヤだったわねえ。」と、嫌な事はあげられても給食がおいしかった。などと言う話はめつたにでないものです。年代を追うごとに、給食がどんどん良くなっていきます。とてもすばらしい事だと思えます。

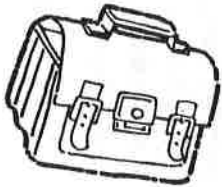
けれども四季折々の自然やその中の遊びは、私の頃の方がと思う事があります。たとえば水泳。今はこの学校もプールの設備が完全に整っていて、夏休みも学校へ行きプールで泳ぐというのがあたりまえです。けれども私達は北川まで歩いていき、石のごつごつした所で泳いだものです。おやつには、家で取れた熟れた真つ赤なトマトを持って行った事がなつかしく思われます。冬には冬で、雪合戦やカッパを着て雪の上に寝ころがったり、お尻をドスンとつけるなど、雪も恰好の遊び道具でした。また雪を集め、滑り台を作って滑った事も楽しい思い出のひとつです。今は本当に雪の量が少なくなっ

たようで、お正月に帰った時子供達に雪遊びをさせてやりたいと思っても、肝心の雪がないお正月がしばしばです。

今、私達家族はいわゆる転勤族で、長男は小学校を三回も変わりました。子供達は定まった土地での私のような思い出は、つくることはできません。けれども、度々の転校(地)の中から、めげずに様々のすばらしい思い出が、その土地その土地で形成されていくように願っています。そして野木小学校で学ばれているお子様に、楽しかった事、頑張った事、悔しかった事など、思い出でいっぱいにして頂きたいと思えます。

最後になりましたが、母校野木小学校が、故郷野木地区が、益々ご発展なさいますように、心よりお祈り致します。

(名古屋市)



思いつくまゝ

第62回卒(旧姓

勝木)兼田

藤林 明子

私が野木地区を出てから、早や十五年目となります。もろろ京都市での生活が生まれ育った野木地区での生活より長くなる頃にこの原稿の依頼が届きました。

私の子供も小学校三年と一年になり、自分の小学校時代と照らし合わせてみて思い出を語りたいと思えます。

私は短大卒業と同時に京都市公立保育所に勤め十三年目になります。共働きで日々忙しく暮している私にとって、田舎に帰るのは年に二、三回位で、野木小学校に立派なプールや体育館が出来たり(でも子供はほとんど少なくなくなっているという事は寂しい事ですが)現在、堤区では工場が着々と建設中という現場も見たりで、どんどん変っていく田舎にびっくりさせられているのですが、どうか自然破壊を最少限にして自然との共存共栄を願っている者の一人です。京都でも開発と景観問題で、ずっと揺れています。

幸い私達の住む伏見はまだまだ田んぼあり、川ありで家のすぐ裏には桂川が流れており、子供達が育っていく環境ではまだ恵まれている方だなあと思っています。

そんな中で育っている私の子供達は学校が終ると児童館(学童保育所)で遊び、私達が仕事から帰るまで家で二人で留守番をしています。私も小さい頃は、友達(家に母がいる)がうらやましく思った頃もありましたが、今となっては母が外で仕事をしている事がとても誇りに思えています。

母と同じ保母という職業を持ち、二児の母であり、妻であり女性でもある。大変な中にも一つ一つの事をやり遂げた後の充実感があり、もともとというらしい事を勉強し、吸収していきたいという意欲が沸いている今日この頃です。田舎の方でもほとんど共働きという状況だろうと思えます。女性が働き易いように、

上中町にも乳児保育所を早急に作ってもらい、女性がどんな社会に出ているかのように援助し、又次代を担う子供達の健全育成を同じ保護者として願わずにはいられません。

ところで、今迄に同級生が何人か亡くなっている事が本当に残念でなりません。(まして、小さい子を何人か残して……)私達が健康で働き続けられている事に感謝して、女性がどんどん社会に出られる為の労働条件の改善を期待して、我が故郷がもっともつと住み易い町へと発展していく事を願って、今後も頑張っていく行きたいと思えます。

(京都市)



成人式をひかえて

第75回 玉置 塚 本 富 代

夏が年々涼しくなっていくような気がするのは私だけでしょうか。今年の夏、上中に帰り、やけに風が冷たかったのを覚えています。

早いもので私も今年で二十歳。成人式を迎えるまでになりました。二十歳というものがまるで別世界のこのよう、昔一緒に遊んだ先輩達が成人式を迎えていくのを見て「大きくなったんだな」と人事のように思っていたのが、今目前にまで迫ってきているなんて信じられません。正直いってあの時の気持ちはどこへ行ってしまったのか、二十歳という実感がなく、自分もいずれば二十歳になるんだというところが考えられなかった頃が懐しくさへ感じます。しかし誰もがこんな気持ちであり、であったろうし、後輩は今あの頃の私かもしれないと思うと何か不思議です。

さて、二十歳という一つの節目を境に思い出深い青春時代にピリオドを打ち、形だけでもようやく大人の仲間入りができるわけですが、実は二十代こそ私が待ちこがれていた年なのです。言葉では言い表わせない、一言で片付けたくない十代ではあつたけれど、私にとって二十代になることが今までで一番ステキな出来事かもしれない。子供なのか大人なのか中途半端な十代後半。そんなあやふやだけれど便利な時代に別れを告げるのは惜しい気もしますが、憧れの二十代を前に夢はつるばかりです。中国ではこの二十代から三十代にかけての時代を、青春に対して「朱夏」と呼ぶそうですが、次にやって来る朱夏の時代に胸は期待でいっぱいです。

もちろん、何が起ころか分からないのだから楽しいことばかりとは限らないでしょう。やはり嫌なことや苦しいこともあるだろうし、死ぬことだつてないとは言いきれませんが、しかしそれだからこそ人生はおもしろいのであって、どんな壁にぶつかっても乗り越えていけると信じています。何も考えずに突っ飛ばされた十代と違って、一人前の大人としての真価が問われる二十代。もしかしたらもう道を踏み外しているのかもしれないが、やり直しのきかない人生、残り少ない十代を悔いなく過ごし臨みたいのです。そして

児童作文

県読書感想文入選作品

「糸でいきる虫たち」

を読んで

一年 倉谷 和幸

お婆ちゃんになって人生を振り返った時、これから訪れる二十代がどの世代よりもドラマチックでキラキラと輝いていてほしいです。

くもは、むしをつかまえる振り返った時、これから訪れる二十代がどの世代よりもドラマチックでキラキラと輝いていてほしいです。

くもは、むしをつかまえる振り返った時、これから訪れる二十代がどの世代よりもドラマチックでキラキラと輝いていてほしいです。

くもは、むしをつかまえる振り返った時、これから訪れる二十代がどの世代よりもドラマチックでキラキラと輝いていてほしいです。

くもは、むしをつかまえる振り返った時、これから訪れる二十代がどの世代よりもドラマチックでキラキラと輝いていてほしいです。

くもは、むしをつかまえる振り返った時、これから訪れる二十代がどの世代よりもドラマチックでキラキラと輝いていてほしいです。

すび目をつくるのです。まるで人げんのようにです。

あおばせせりのようちゅうは、まゆをつくるほどいがないので、はっぱでかくれがつくりました。木のはをま

るめて、おうちをつくり、じぶんでまどもつくったのがすごかったです。

はねなしこうろぎも、口からいとをだして、はっぱでかくれがつくりました。

「ぼくらのカマキリくん」 を読んで

四年 桑原多佳子

また、あげはちようのようちゅうは、いとにささえられて、なん日もねむりつづけ、いとのおかげでうつくしいちようになれるとかいてあつてかんしんしました。

ぼくは、このほんをよんでしらなかつたことをいっばいしりました。むしやとりがいとをつかっているを見て、おもしろかつたです。

「ぼくらのカマキリくん」というお話は、ちよつとワンパクな男の子の良二と良二のお兄さんが、カマキリを育てていく様子を書いてあるお話です。私は、カマキリが好きなのでこの本を選びました。

最初、カマキリがたまごをシユロ竹に産んだ時、生まれたカマキリは、どんな風に育つていくのか心配でした。でも、良二がそれを見付けて、お兄さんと一しょにちゃんとカマキリを育てたのがりっぱだと思えます。とおるとい

だつびした時は、みんなともうれしそうでした。庭にカマキリがいた時も、(ぼくらのカマキリくんかも)と思つたのも、無理がないと思ひました。

でも、その後、いろいろな苦労や心配もありました。あき地へ行って、えさをさがしている時、あき地でカマキリがにげ出したのです。悲しかつたです。わたしも、カブト虫をにがす時は、泣きたいぐらい悲しかつたです。それがこの時は、にげてしまつたんですから。その上、お兄さんばかりせめられて、かわいそうでした。

えさのことも、育てることでも、良二と良二のお兄さんとがけんかしながら育てていきます。二人でちゃんと育てられるのかとても心配になりました。

それから、良二は、色々な所でカマキリを見付けてかんさつしていたのだと思ひます。わたしも、カマキリが好きなので、む中になる気持ちもよくわかります。でも、きつと、良二たちのように、二時間もカマキリのけんかを見るほどむ中になれません。だから、良二たちは、カマキリのこと

が、大好きなんだと思ひます。でも、そんなに一生けん命育てていた、カマキリが、あくる朝、死んでいました。かわいそうでした。わたしも、カブト虫を学校でかつた時、毎朝、「死んでないかな、神様生きていますように。」と手を合わせて、おねがひしたこともありましたが、にがした時悲しくて、ちよつと泣きました。今、思い出しても、目に

子どもの作文

音楽会の練習

五年 竹村美沙



十月二十五日の音楽会をひかえて私たち五年生と三年生は、音楽の授業はもちろん、昼休みや、放課後などにも練習している。

五年生の私たちは、「風を切つて」と「ファランドール」の二曲を演奏する。ちなみに、私は「風を切つて」はピアノを、そして「ファランドール」では、アコーディオンを弾く。初め私の弾くピアノは、右手だけだったけれど、速水真由子さんが両手でやっているのを見て、宮川先生が「両手でやったらカッコいいな。美沙さんも、両手でやってみな。」とおっしゃったので、両手でしてみることにした。でもいざやってみると、なかなかできなかつたので、杉山の道をはさんでとなりの家のピアノを使わせてもらっている。そうしたら、だんだんできるようになつてきた。

「ファランドール」は、曲をAからNの部分に分け練習

なみだがたまつてきます。「ぼくらのカマキリくん」というお話は、とても楽しいことばかりかと思ひましたが、心をうたれた所も何度かありました。とくに、良二と良二のお兄さんが、うそをついてまでカマキリを一生けん命育てているのが心にのこりました。良二たちの努力は、本当にりっぱでした。カマキリくん良かつたですね。

をした。その中でもKが一番むずかしいので、何回も、何回も練習して、だいぶできるよになつてきた。

この前の六限目は三年生といっしょに練習した。「風を切つて」はうまくできたが、「フアランドール」は少し速かつたけど、うまくできたのでよかつた。

三年生の歌は、「くいしんぼうの雲」と、「きみもぼくも友だち」だった。ひろ子さんと、みゆうさんは、一人で歌う所がとっても上手で、宮川先生や男子も

「うまいなー」と言っていた。もちろん女子だつてそう思ったにちがいない。「風を切つて」は、六年生も学級自慢で発表するので、わざわざ呼んできて、

「一回やってみてよー」と言つて、やつてもらふことにした。六年生は、リズムが良くて「やっぱり六年生やな」と思った。

次の日は土曜日だったので、小椋さんといっしょに、絵美さんの家に行った。初めは、勉強をしていなければ、いやになつたので、ピアノ、エレクトーン、キーボードで「風を切つて」と「フアランドール」

の合奏の練習をした。おもしろかつたので、何回も何回も練習した。そのおかげで、まちがえずにできるようになつてきた。

新聞はいたつをして

三年 中村吉伸

ぼくが、新聞はいたつを始めたのは、今年の四月からだ。お母さんが、

「ほんとにやるね。」と言つた。ぼくは、前からやつてみたいと思つていたので、はりきつて、

「ほんとにやる。」と答えた。いよいよ、次の日の朝六時から、新聞はいたつが始まつた。お姉ちゃんに、一週間つだつてもらつた。どこへくばるかわからなかつたからだ。

次の日から、一人で新聞はいたつをする事になつた。始めに、たつし君の所に新聞をとりに行つて、自てん車の前のかごの中に入れて、はいたつだ。

はじめは、たつし君の家のポストに新聞を入れ、次の家、また次の家と入れていき全部で十四けんくばつた。やつと

練習に練習を積み重ねてきて、やつとできるよになつてきたから、当日は、まちがえずに、演奏したいと思う。

でおわつた。ぼくは、帰るとき、ゆつくり自てん車をひいて帰つた。家に帰つたら、ふとんに入つてねてしまつた。

次日の朝は、きのうよりおそくなつてしまつた。三十分もちこくだ。(早くせんとあかんなあ。)と、あせつてきた。

じろきちさんの家に行つたら、おじちゃんがぼくのほうを見て立つていた。「ありがとう。」

と言つてくれたので、ぼくはとつてもうれしかつた。早くすませようと思つて、いっしょけんめいやつて、家に帰つてほつとしていたら電話がかかつてきて、一けん入つて

いない所があり、すぐに行つた。ぼくは、「わるいことをしたな。」と、思い

編集後記

「すいませんでした。」とおじちゃんに新聞をわたした。時間におくれたり、まちがつたり、しつぱいばかりだ。みんなにわるいことしたな。でも、ぼくの新聞をみんなが待っているんだと思うと、う

会員各位のご協力により、ここに第六号をお届けできまふこと、編集委員一同厚くお礼申し上げます。

ふる里を想う数々の便りをいただき、同窓会という組織の力強さを感じさせていたいただきました。特に、速水兼三郎さんからは、原稿依頼を受け嬉しさとなつかしさにむせび、会運営の一助にとの志を



れしくつてわくわくしてくる。夏休みには、まちがえないでいたつできるよになつた。とつてもうれしかつた。朝は、ねむたいし、だんだんさむくなるけれど、まけないでがんばろうと思つた。

いただきましたし、合せて旧校歌の歌詩を知つておられる方を探して欲しいと宿題をいただきました。ご存知の方は事務局までお知らせください。中核工業団地での操業が開始されました。variゆく上中町・野木の里へ時々お立ち寄りください。

編集委員一同

事務局から

○会員名簿の残部がありますので、ご希望の方はお申し出ください。八百円です。

○住所変更や改姓された方は速やかにお知らせください。連絡先 〒919-115 ☎(077)115-11300

福井県速敷郡上中町武生 野木小学校